



担い手通信



JA bank Mic

Topic

今月の話題

わな・柵カメラが監視→メールで伝達→まとめて捕獲 防げ鳥獣害 ICT駆使 対策実施312市町村計画163

農水省調査

箱 わなの遠隔監視や遠隔閉扉など、情報通信技術（ICT）を駆使した鳥獣害対策に42道府県312市町村が取り組んでいることが、農水省の調査で分かりました。ICT対策の調査は初の試みです。わなを見回る時間を省けたり、ある獣種をまとめて捕獲したりと効率化ができるため、普及が進んでいます。163市町村が今後実施する計画で、農水省は、ICT活用がさらに広がるとしています。

鳥獣害被害防止計画を策定している市町村は1458（2017年4月）。そのうちICTを鳥獣害対策に活用している自治体を調べました。

道府県別に見ると、最も

ICT対策をする市町村が多いのは北海道で16。道農政部技術普及課によると、被害額42億5000万円（15年）と獣種中で最大のエゾシカ対策に、誘導柵わなをカメラで監視し、鹿が入ったら遠隔操

作で柵を閉めるシステムが導入されているといっています。

北海道に続く三重県では、15市町村が導入。県農業研究所などが開発した捕獲装置「クラウドまるみえホカクン」が普及しています。おりに獣が入ったらメールで知らせ、遠隔操作で閉め、捕獲します。カメラで映像も見られ、猿の群れをまとめて捕獲するのに使われています。三重県の猿被害額は6500万円（15年）で全国第3位となっています。

鳥被害のICT対策をしている市町村数

北海道	16	滋賀	11
青森	2	京都	10
岩手	4	兵庫	11
宮城	6	奈良	12
山形	9	和歌山	12
福島	10	鳥取	2
茨城	2	島根	7
栃木	5	岡山	5
群馬	3	広島	9
千葉	11	山口	2
神奈川	2	徳島	7
新潟	4	香川	12
富山	8	愛媛	7
石川	7	高知	8
福井	12	福岡	9
山梨	5	佐賀	5
長野	10	長崎	9
岐阜	7	熊本	8
静岡	1	大分	10
愛知	7	宮崎	6
三重	15	鹿児島	4
合計		312	

※未記載都府県はゼロ

西日本を中心にICT対策を進めるところが多くありました。わな内のセンサーで頭数や獣種を判別して捕獲したり、獣の位置を地図上に可視化したりする技術も、導入や開発が進んでいます。

調査では今後取り組みたい自治体も調べ、農水省は「さらに増えるのは確実。見回り作業を省力化でき、高齢化で対策を取りにくかった地域でも活用が見込める」（農村環境課）とみています。被害軽減に向け、引き続きわなや侵入防止柵の整備を推進するとしています。

数字でみえる 三重県の農と食

5428

県内の農と食に関する統計データを用い、農業の現状を数字から読み解きます。

農業生産関連事業に取り組む 農業経営体の数

農産物の加工や観光農園、直売所などを利用した消費者への直接販売といった、農業生産に関連する事業を行った三重県の農業経営体の数は、2015年で5428経営体（2015年農林業センサス）。県の農業経営体に占める割合は21%です。事業種別でみると「消費者に直接販売」が90%と、非常に高い割合を占めています。

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

大豆の害虫ミナミアオカメムシが 越冬可能な地域を予測するシステムを開発

三重県農業研究所は、ミナミアオカメムシの越冬可能な地域を予測するシステムを開発しました。このシステムは越冬可能地域予測モデルをもとに1キロメッシュごとの越冬可能確率を算出して予測図を作成します。大豆の害虫であるミナミアオカメムシは温暖化とともに分布拡大していると考えられており、県内での

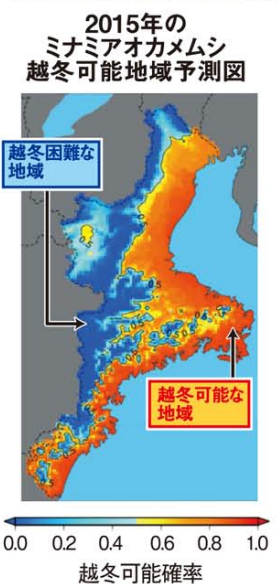
生息範囲の実態解明が求められていました。同システムは国立開発研究法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発したメッシュ農業気象データシステムから気象データをもとに作成される1キロメッシュの気象データをもとに作成しており、予測を行いたい地点を含む1キロメッシュの越冬可能確率を算出します。また、予測図作成プログラムを

利用することで越冬可能な地域を予測図として可視化できます。この予測システムの予測結果を2015年のミナミアオカメムシ越冬世代の分布調査結果と

比較して検証した結果、約7割の正答率でした。このシステムの活用にあたっては、メッシュ農業気象データシステムの利用者登録が必要です。

2015年のミナミアオカメムシ越冬可能地域予測図

越冬困難な地域



お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産物安全安心研究課 ☎0598-42-6360

JA多気郡

柿選果ライン刷新 品質向上へ 輸出用個包装機も

JA多気郡は、多気町にある多気営農センター柿共同選果施設の選果ラインと箱詰めラインを、2017年産から刷新した。1時間に最大2万1600個と、前年までの1.5倍量の選別が可能となる。輸出用の真空パック詰めが可能な個包装機と、最新鋭のカラーセンサー選別機も新規に導入。品質向上と輸血量増大を実現し、農家の所得増大につなげる考えだ。10月15日、新ラインで特産の柿「前川次郎」の出荷を始めた。12月までに650トンの出荷を見込む。(2017/10/17 ワイド1東海)

JA鳥羽志摩

“専用”品種を挿し木で増殖「鵜方紅茶」産地 復活めざす

JA鳥羽志摩はこのほど、かつて盛んに生産されていた「鵜方紅茶」復活に向けて、紅茶用品種「はつもみじ」「べにほまれ」「べにかおり」の挿し木をJAの施設で行った。地域に紅茶用品種を定着させ、商品化を目指す。JA経済部営農振興課の野村沙織課長は「今後1年間JAで管理し、地域での増殖を目指したい」と話す。(2017/10/7 県版三重)

JA三重南紀

高糖度ブランド温州ミカン「甘えんぼう」登場 1ケース5000円

JA三重南紀は10月12日から、高糖度のブランド温州ミカン「甘えんぼう」の2017年産の販売を名古屋、大阪市場で始めた。初日は極早生品種12トンを出荷。このうち、糖度13以上と厳選した等級は化粧箱(1ケース2キロ)入りで、1ケース当たり5000円の高値で取引された。JAは2015年産から、高糖度温州ミカン「甘えんぼう」としてブランド化した。JA温州部会で選抜した24戸が2.1%で極早生品種「崎久保早生」を中心に栽培する。早生品種の「興津早生」「宮川早生」は11月下旬から出荷予定だ。(2017/10/18 ワイド2東海)

明日の農業を担うみなさまへ
JAバンクは地域農業を応援します!

JAバンク利子補給制度のご案内

最大年利1% 利子補給

JAバンクでは、農業者のみなさまに対して、借入負担の一部を軽減することにより、農業経営の安定化・効率化を支援します。

農業経営資金

農業を営むすべての方に

農機ハウスローン

農機具や軽トラックを急いで買い換えたい方に

スーパーS資金

短期の運転資金が必要になった方に

JA新規就農応援資金

農業を始める方や始めたばかりの方をバックアップ

JA持続的農業応援資金

ベテラン農業者の方をバックアップ

JA飼料用米等対応資金

飼料用米等の生産拡大に取り組む方に

農業近代化資金

認定農業者の方や一定の条件を満たす農業者の方に



農業近代化資金については、利子補給・利子助成内容がJAにより異なる場合があります。詳しくは、お近くのJA/バンク窓口までお問い合わせください。
<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成29年10月現在

《金利情報》 平成29年10月現在

農業経営資金

変動金利

年1.00%

固定金利

年1.50~2.00%

※上記の借入利率は、代表的な利率であり、JAによって異なる場合があります。適用利率等の詳細はお近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。

スーパーS資金

年1.5%

(変動金利)